

ばにばにベンジヤミンのはなし

THE TALE OF BENJAMIN BUNNY

ベアトリクス・ポッター Beatrix Potter
おおくぼゆう [やへ]

どもたちへ
ばにばにパパさんから
ソーリーじゅうのこ





あるひの あさ 1ぴきの こうさがが かわ
べに すわっていました。

みみを たてて こうまの パカラン パカラ
ンという あしおとを きいていたのです。

みちを すすむのは 1だいの ばしやで、
うんてんしゆは マグレガーおじさん、 わきに
は よそいきの ぼうしを かぶった マグレ
ガーおばさんも いました。



ばしやが いってしまうと、 ばにばにベン
ジャミンくんは すぐさま みちへと すべりお
りて、 かけだしました ―― ひよい、 ぴよ
んぴよん、 びよおうん ―― マグレガーさん
の おにわの うらの もりに すむ しんせき
の おうちを たずねるのです。



そのもりには うさぎあなが いたるところに
あつて、 そのなかでも いちばん きちんとし
ていて ふかふかなのが ベンジャミンの おば
と そのいとこたち ー フロプシー モプ
シー カントネル ピーター ー の おうち
なのです。

あなうさパパは もう いないので、 あなう
さママが うさぎの けいとで てぶくろや リ
ストバンドを あんで、 ぐらしを たてていま
した。（わたしも このまえ バザーで かつ
たんですよ。） そのほか ハーブや ローズマ

リーの おちや、 あなうさタバコ （いわゆる
ラベンダー） なんてものも うっています。



ベンジヤミンくんは　あまり　おばさんとは
あいたくなくて。

そこで　モミのきの　うらに　まわったのです
が、　あやうく　いとこの　ピーターの　まうえ
へ　ころげおちそうに　なりました。



ピーターが からだを まるめていたのです。

どうも げんきが なさそうで、 あかい わた
げの ハンカチに くるまっていた。

「ピーター。」と ベンジャミンくんの ひそひそ
ごえ。 「おまえ、 ふく、 だれに とられたん
だよ？」



ピーターの　へんじは　「マグレガーおじさん
の　にわの　かかしさ。」　それから　にわで
おいかけまわされたこと、　くつと　ふくを　な
くしたことを　せつめいしました。

ベンジヤミンくんは　いとこの　わきに　こし
を　おろして　ちからづよく　かたります。　マ
グレガーおじさんが　ばしやで　でかけたこと、
おばさんも　いっしょだということ、　しかも
よそいきの　ぼうしだったから　1にちじゅう
でかけっぱなしだと　いうことを。



ピーターは、あめでも ふればいい、
いい
ました。

と そのとき、 あなうさママの こえが う
さぎあなの なかから きこえてきます。「カト
ンテル！ カトンテル！ ちょっと カモミール
を とってきて！」

ピーターは、さんぽに いけば たぶん き
ぶんも よくなる、
いいいました。



ふたりは てを つないで どんどん あるき、
もりの へりにある いしがきの うえ、 ひ
らたいところに のぼりました。 そこから マ
グレガーおじさんの にわが みおろせるのです。
ピーターの うわぎと くつが かかしのとこ
ろに あるのが はつきりと わかって、 あた
まには マグレガーおじさんの おふるの ベ
レーぼう。



ベンジャミンくんが　います。「さくの　し
たを　くぐりぬけたら　なんだって　ふくが　だ
めになる。　ナシのきを　つたって　おりれば
うまく　しのびこめるんだ。」

ピーターが　あたまから　おっこちましたが
ことなきを　えました。　したの　なえどこが
たがやされたばかりで　ふかふかだったのです。



そこに まかれていたのは レタスの たねで
した。

ふたりは なえどこの あちこちに ちいさく
あやしげな あしあとを たくさん つけます。
きぐつを はいた ベンジヤミンくんは とくに
もう。



ベンジャミンくんの　はなしでは、　まず　やるべきことは　ピーターの　ふくを　とりもどすこと、　そうすれば　ハンカチも　つかえるようになるとか。

というわけで　かかしは　はだかに　されまして。　よるのあいだに　あめが　ふったので、　くつには　みずが　はいつていて、　うわぎも　ちよつぴり　ちぢんでいました。

ベンジャミンは　ベレーぼうも　かぶってみましたが　かなり　ぶかぶかです。



そのあと タマネギを ハンカチで つつんで
おばさんへの ささやかな おみやげに しよう
と いいだしました。

ピーターは たのしくなさそうでした。 みみ
が がんがん しっぱなしなのです。



それに ひきかえ ベンジャミンは まったく
わがものがおで、 レタスの はっぱを かじり
ます。 なんでも いつも おとうさんと いっ
しよに このにわに やってきては レタスを
とつて にちようびの ごちそうに するのだと
か。

（ちなみに ベンジャミンくんの おとうさんの
なまえは ばにばにパパさんと いいます。）
もちろん いいできの レタスをです。



ピーターは なにも くちを つけず、 お
うちに かえりたいと いいだしました。 とた
んに タマネギを はんぶん おっことします。



ベンジヤミンくんは、やさいを せおつたま
まじや ナシのきは のぼれないな、 といいま
した。 さきに たつて ずかずかと にわの
はんたいがわへと あるいていきます。 ふたり
が とおつたのは あかるい いろの れんがべ
いの した、 いたを わたした こみちでした。
ねずみたちが とぐちだんのところで サクラ
ンボの たねを わっていたのですが、 あなう
さピーターと ばにばにベンジヤミンくんが と
おりすぎたので めを ぱちくりさせました。



そのうち ピーターは またしても ハンカチ
から てを はなしてしまいます。



ふたりは うえきばちと なえばこと ひらば
ちの ならんだところへ やってきました。

ピーターの みみなりは ますます ひどくなっ
て、 めなんか あめだまみたいに はれあがつ
て！

いとこの すうほまえを あるいていたのです
が、 いきなり たちどまってしまいます。



かどを まわったところ こうさぎたちの
のまえに こいつが いたのです！

ベンジャミンくんは ひとめみた とたん、
すかさず ピーターを タマネギごと ひっぱっ
て、 じぶんも いっしよに かごの したへと
かくれて ……



ねこの おじょうさんは おきあがると のび
をして、 こっちへきて かごを くんくんと
かぎました。

もしや タマネギの においが だいすきだと
か！

それは さておき かごのうえに のっかって
しまつて。



5じかんも ずっと そのまま。

* * *

わたしには かごのしたの ピーターと ベン
ジャミンを みなさんに かいてあげることが
できません。 まず まっくらですし、 タマネギ
の においが ひどくて あなうさピーターと
ベンジャミンくんは なみだまみれでしたから。

おひさまが もりの むこうに ぐるつと ま
わって、 おひるも だいぶ すぎましたが、 ま
だ ねこは かごのうえに すわっていて。



はたして　そこへ、　ぱらぱら　ぱらぱらと
モルタルの　かけらが　へいのうえから　おちて
きます。

ねこが　みあげると、　なんと　ばにばにパパ
さんが　たかい　いしがきのうえを　ゆうゆうと
あるいているのです。

あなうさタバコの　パイプを　ふかして、　て
には　こぶりの　むち。

じぶんの　むすこを　さがしているのですた。



ばにばにパパさんは　ねこというものを　よく
おもってはいません。

いしがきのうえから　ねこの　あたまを　めが
けて　ちからいっぱい　とびかかり、　ひっぱた
いて　かごから　どかし、　さらに　てを　ひと
つかみ　むしって　おんしつへと　けりいれてし
まいました。

ねこは　おどろきのあまり　やりかえすことも
できません。



ばにばにパパさんは　ねこを　おんしつのなか
へ　とじこめました。

それから　かごのところへ　もどると　むすこ
の　ベンジャミンの　みみを　つかんで　ひっぱ
りだし、　こぶりの　むちで　ぺしんぺしん。
そのあと　おいの　ピーターも　ひっぱりださ
れて。



そうして タマネギの つつみを とりあげる
と、 にわの そとへと のしのし でていきま
した。



その30ぷんあとに もどってきた マグレ
ガーおじさんは、 あちらこちらの ようすが
どうも みようなことに きづきました。 だれ
かが にわじゅうを きぐつで あるきまわった
みたいなのに —— そのあしあとと きたら
おかしなほどに ちいさくて！
それに なぜだか ねこが じぶんから おん
しつのなかへ とじこもって、 かぎも そとか
ら かけていたのです。



おうちへ かえった ピーターですが、おか
あさんは おこりませんでした。 むすこが じ
ぶんで くつと うわぎを みつけてきたと わ
かって うれしかったのです。 カトントルと
ピーターは ハンカチを きちんと たたみ、
あなうさまは タマネギを しばって だいど
ころの てんじょうから つるしました。 ハー
ブの たばや あなうさタバコと おんなじこ
ろに。

（おしまい）

翻訳の底本：Beatrix Potter ”The Tale of Benjamin Bunny”（1904）

上記の翻訳底本は、著作権が失効しています。

翻訳者：大久保ゆう

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」

（<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>）によって公開されています。

上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

※翻訳者のホームページは、<http://www.alz.jp/221b/> にあります。作品・翻訳の最新情報やお問い合わせは
青空文庫ではなく、こちらをお願いします。

2009 年 12 月 18 日翻訳

2010 年 2 月 10 日修正

2010 年 3 月 14 日修正

2010 年 3 月 14 日ファイル作成

青空文庫提供ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）へ提供されています。

